

カキ生育情報

千葉県
平成30年7月号

平成30年6月の気象

平成30年6月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は、第4半旬を除く5半旬で平年を上回った。月平均気温は21.4℃で、平年より0.7℃、前年より0.5℃高かった。

降水量は、第1及び第6半旬を除く4半旬で平年と同じか上回った。月合計は283mmで、平年の116%、前年の186%であった。

日照時間は、第2及び第4半旬を除く4半旬で平年と同じか上回った。月合計は174時間で、平年の131%、前年の107%であった。

梅雨入りは6月6日頃で、平年より2日、前年より1日早かった。また、梅雨明けは6月29日頃で、平年より22日、前年より7日早かった。

表1 平成30年6月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	20.5	19.7	20.6	1	26	2	54	29	52
2	21.2	20.1	20.9	72	29	8	23	26	25
3	20.7	20.3	18.8	47	47	16	22	22	18
4	19.4	21.2	20.5	65	44	22	9	20	41
5	21.5	21.1	22.3	96	55	94	22	18	24
6	25.0	22.0	22.0	2	43	10	43	19	4
平均/計	21.4	20.7	20.9	283	244	152	174	133	163

樹及び果実の生育

6月末のカキの果径を表2に示した。横径は、「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ4.05cm、4.36cm、「富有」が4.24cmであった。平年と比べると、「西村早生」及び「松本早生富有」は117%、「富有」は122%といずれも平年より大きかった。

縦径は、「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ3.20cm、3.15cm、「富有」が3.09cmであった。平年と比べると、「西村早生」は116%、「松本早生富有」は112%、「富有」は111%といずれも平年より大きかった。

果形指数は、「西村早生」と「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ1.27、1.39、「富有」が1.37であった。平年と比べると、「西村早生」は平年並であり、「松本早生富有」及び「富有」やや大きく横長の傾向であった。

本年の果実の発育は、3品種ともに平年より良好であった。これは、開花が早かったことに加え、その後の気象条件も順調であったためと考えられる。生理落果はいすみ市の「西村早生」でやや多く、他の調査地では平年並である。着果量は、いすみ市の「西村早生」でやや多く、他の調査地では平年並である。

表2 果実の生育（6月30日の果径）

品 種	調 査 地	横 径 (cm)			縦 径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
西村早生	いすみ市	3.96	3.42	3.48	3.14	2.72	2.74	1.26	1.25	1.27
	暖地園研	4.14	3.47	3.54	3.26	2.71	2.87	1.27	1.28	1.23
	平 均	4.05	3.47	3.51	3.20	2.75	2.81	1.27	1.26	1.25
松本早生	市原市	4.21	3.83	3.66	3.09	2.77	2.62	1.36	1.38	1.40
	富 有 暖地園研	4.52	3.59	3.68	3.20	2.84	2.78	1.41	1.26	1.32
	平 均	4.36	3.74	3.67	3.15	2.81	2.70	1.39	1.33	1.36
富 有	暖地園研	4.24	3.48	3.52	3.09	2.79	2.74	1.37	1.25	1.28

果形指数：横径／縦径

平年：暖地園研は1990年～2017年の平均、いすみ市、市原市は1998年～2017年の平均

7～8月の作業

摘 果

「西村早生」では、果頂部が凹んでいる果実や部分的な生育不良により不整形になった果実は、渋果の恐れがあるので摘果する。なお、8月中旬頃と収穫前の9月にも、渋果を樹上選別するための摘果を行うので、7月の時点では目標着果数(10a当たり12,000果)より2割程度多め(10a当たり14,000～15,000果)に果実を残しておく。

なお、いずれの品種も目標着果数を下回る場合は、樹勢のバランスを保ち隔年結果を助長しないようにするため、病虫害被害果の除去など必要最小限の摘果にとどめる。

枝管理

せん定が不十分であったり、不定芽(陰芽)が多く発生して枝葉が込み合っている場合は、病虫害の発生を抑え枝の充実を図るため、枝葉を間引きして風通しを良くする。特に、炭疽病の病斑が発生した枝は果実等への感染源になるので必ずせん除する。なお、2次伸長枝はこの時期は放任し、8月下旬以降に整理する。

枝葉が少ない場合は徒長枝等もせん除せずに、ねん枝や誘引によって葉数確保に努める。

病虫害防除

7月から9月上旬は、炭疽病、落葉病、うどんこ病及びカキノヘタムシガの防除時期である。ただし、「西村早生」などの極早生品種では、収穫前日数等の安全使用基準に留意するとともに、使用する薬剤によっては薬害が生じるので十分注意する。

カキノヘタムシガの2回目の幼虫の食害が始まるため、8月中旬に防除を行う。なお、カメムシ類の発生が多い場合は、8～9月が防除適期となる。

防除に際しては、千葉県農作物病虫害雑草防除指針を参考に行う。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>